

# 12課

6月19日

## 契約の信仰



安息日午後 6月12日

### 暗唱聖句

律法によってはだれも神の御前で義とされないことは、明らかです。なぜなら、「正しい者は信仰によって生きる」からです。(ガラテヤ3:11、新共同訳)  
そこで、律法によっては、神のみまえに義とされる者はひとりもないことが、明らかである。なぜなら、「信仰による義人は生きる」からである。(ガラテヤ3:11、口語訳)

### 今週の聖句

ガラテヤ6:14、ローマ6:23、1ヨハネ5:11、13、ローマ4:1~7、レビ記7:18、レビ記17:1~4、ローマ5:1

### 今週のテーマ

詩人ホメロスは『オデュッセイア』を書きました。これは偉大な戦士、オデュッセウスの物語です。彼はトロイア戦争でトロイアの町を打ち負かした後、彼の故郷であるイタケーに戻るために10年におよぶ航海をします。たくさんの恐ろしいことが目的地への航行を阻んだからでした。ついに、オデュッセウスの苦しみは十分だと考えた神々は、この弱り切った戦士が彼の家と家族のもとに戻るのを許します。神々は、彼の過ちは贖あがなわれたと考えたのでした。

ある意味、私たちはオデュッセイアのような長い帰郷の旅路にあるようなものです。しかし重要な違いは、私たちはオデュッセイアのように、罪の代価を支払うための「十分な苦しみ」などないのです。私たちの過ちのために引き裂かれた天と地の距離は、あまりに遠すぎるのです。もし私たちが家に帰れるとすれば、それはただ、神の恵みによる以外にないのです。

### 今週のポイント

救いはなぜ賜物なのでしょう。なぜ神と等しい方しか、私たちを贖あがなえないのでしょうか。何がアブラハムを信仰の偉人に行っているのでしょうか。私たちにとって義と「認められる」「見なされる」とはどういう意味でしょうか。私たちは十字架の約束と希望をどうすれば自分のものとできるのでしょうか。

神が古い契約のもとで人々を救われたのと、新しい契約のもとで救われるのは同じ、信仰のみによります。もし救いが、行いのような他のものによるのであれば、救いは私たちによるものとなり、創造主は私たちに救いを与える義務があることとなります。罪の深刻さを理解しない者だけが、神が私たちを救う義務があるということを信じるのです。逆に、そこに責任があったとすれば、それは私たちが律法に違反したことによる責任です。もちろん、私たちはその責任を負うことはできませんでしたが、イエスが私たちのためにそれを負ってくださったのです。

『人が、天の君主が人間のために死ぬことによって成し遂げられた大いなる犠牲の重大さを完全に理解することができたなら、救いの計画はあがめられ、カルバリーを思い描くことは、キリスト者の心の柔らかく、清く、そして鋭敏な感情を呼び覚ますであろう。……世の富のすべてをもってしても、1人の滅びゆく魂<sup>あがな</sup>を贖うにも値しない。だれが十字架に架けられ、罪人の罪のために苦しまれたキリストの、失われた世のためにお感じになったその愛の大きさを計ることができるだろうか。その愛は測ることができず、無限である。

キリストは、その愛は死よりも強いことをお示しになった。彼は人の救いを成し遂げようとしておられた。主は闇の力との最も恐ろしい闘いの中におられたが、そのただ中であってなお、主の愛はさらに、もっと強くなった。主は御父の御顔が隠され、魂の苦しみの叫びへと導かれるまで耐え忍ばれた。『わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか』。その御腕が救いをもたらしたのである。天の君が人の贖いのための代価を支払われたのである。最後の魂の苦しみの中で、創造のときに語られたであろう祝福された言葉が再び響いた。「すべてが終わった』

『カルバリーの光景は最も深い感情を呼び覚ます。この主題においてなら、あなたが感情の高まりを抑えられなかったとしても許されるだろう。かくも気高く、汚れなきキリストが、これほどに痛ましい死を忍び、世のすべての罪の重荷を負われたのだから、我々の思いや想像力では、決してそれを完全に理解することはできない。このような驚くべき愛の長さ、広さ、高さ、深さを我々は測り知ることはできない。比類のない救い主の愛の深さを熟考するとき、心は満たされ、魂はその愛に触れて溶かされ、愛情は清められ、高められ、そして品性全体が完全につくり変えられるのである』(『教会への証』第2巻212,213ページ、英文)。

上の引用文を頭に置きながら、ガラテヤ6:14を読んでください。どうすれば私たちはキリストの十字架に栄光を帰すことができるでしょうか。

「知ってのとおり、あなたがたが先祖伝来のむなしい生活から<sup>あがな</sup>贖われたのは、金や銀のような朽ち果てるものにはならず、きずや汚れのない小羊のようなキリストの尊い血によるのです」(1ペト1:18、19)。

**問2** ここでペトロが私たちは贖われたと言っているのはどういう意味でしょうか。

ペトロが十字架のキリストの贖いの死について述べる時、「贖い」または代価を払うという思想は、奴隷がその捕囚から解放されるのは、その代価が(多くの場合は親類によって)支払われた後であるという古代の慣例を念頭に置いていると考えられます。対照的に、キリストが私たちを罪の奴隷とその最終的な実から贖われたのは、死によってでした。主はそれを「尊い血」によって買い取りましたが、その代償はカルバリーの自発的な死でした。これこそが、すべての契約の基礎であり、これなしには契約は無効であり、空虚なものになります。なぜなら、神はすべて信じる者に永遠の命という賜物を与えるという取り決めにおいて、神の側の約束を正しく満たすことができないからです。

**問3** ローマ6:23、1ヨハネ5:11、13を読んでください。これらすべてに共通するメッセージは何ですか。

私たちがこの永遠の命の約束を持っているのは、イエスだけが、初めに私たちが永遠の命を失う原因となった契約違反を修復することができたからです。なぜでしょうか。創造主の義と無限の価値だけが、私たちが律法を破ったために負うべき負債を帳消しにすることができたからです。それほどに罪による違反は大きかったのです。結局のところ、もし有限で、束の間命である、つくられた者が違反の罰を支払うことができるとすれば、神はその永遠の道徳律に違反することの重大さをどのように示すことができたでしょうか。神ご自身と等しいお方、そのうちに、借り物でない、他の何物にもよらない永遠の命をお持ちであるお方だけが、私たちが律法に対する負債から解放するための代価を支払うことができたのでした。こうしてすべての契約の約束は満たされ、こうして私たちは、永遠の命の約束を持ち、こうして今も、私たちは罪と死から贖われているのです。

「彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた」(創15:6、新改訳)。

この聖句は今も聖書の中で最も深い意味を持つ記述の一つです。それは信仰による義という聖書の宗教の重大な真理を確立するのです。しかもそれは、パウロがローマの信徒への手紙にこの真理を記す幾世紀も前のことなのでした。その事実のすべては、エデン以来、救いは常に同じようにもたらされたことをも立証しているといえるでしょう。

この聖句の前後の文脈は、アブラムの信仰がどれほど大きなものであったかを理解する助けとなるでしょう。彼は物理的には不可能と思えるあらゆる証拠があるにもかかわらず、子孫を与えるとの神の約束を信じたのです。それは、自分はまったく無力であることを認める信仰であり、完全な自己の屈服を要求する信仰です。そしてそれは、主への全的服従を要求する信仰であり、服従によってもたらされる信仰です。これがアブラムの信仰であり、それが「彼の義と認められた」のです。

**問4** なぜ聖書は、アブラムの信仰を「彼の義と認めた」というのでしょうか。アブラムは、神の義の意味において、「義」であったのでしょうか。神が彼を義とされた後、いくらもたたないで彼は何をしましたか。その出来事（ハガルによるイシュマエルの誕生）は、なぜ彼自身が実際にどんな者であったかによらず、義とされたのかを理解する助けになりますか。

アブラムの生涯がどれほど信仰と服従の生涯であったといっても、それは完全な信仰と完全な服従の生涯ではありませんでした。その両方で、彼は（あなたのよく知る人たちのように）、何度も弱さを示しました。その弱さのすべてが、私たちが救う義は、私たちに貸与される義であり、「転嫁される」義という重大な核心へと導くのです。これは、私たちは私たちの過ちにもかかわらず、神の目において義と宣言されることを意味し、それは天の神が、私たちはそうではないのに、義なる者としてご覧になることを意味します。これこそが、神がアブラムにされたことであり、これこそが、「彼〔アブラム〕の信仰」によって神に来る者すべてに対して主がなさることなのです（ロマ4:16）。

ロマ4:1~7を読んでください。ここでパウロが創世記15:6を引用していることに注目してください。祈りのうちに、これらの聖句が語っていることをあなた自身の言葉で書き表してみましょう。

創世記15：6をもう一度見てみましょう。ここにある「認める」（ヘブライ語のハシャブ）という語には、「……と見なす」など、さまざまな訳語があります。

モーセの書の他の聖句にも、同じ語が用いられています。ある人や物を、その通りの人や物でないものとして「見なす」といった使い方をします。創世記31：15では、ラケルとレアが、娘であるのに、父親が彼らを他人と「見なして」いるとヤコブに言う場面があります。またレビ人の什一は、脱穀したばかりのトウモロコシと同様のものと「見なされた」とあります（民18：27、30）。

**問5 犠牲と言う文脈では、見なすという考えはどのように表現されていますか（レビ7：18、17：1～4）。**

英語欽定訳聖書では、ヘブライ語の「ハシャブ」を「<sup>てんか</sup>転嫁される」と訳しています。特定の犠牲（「<sup>きよ</sup>和解の<sup>きよ</sup>献げ物」）が三日目までに食べられなければ、その価値は失われます。そしてその<sup>きよ</sup>献げ物は、<sup>きよ</sup>献げた者の恩恵とは「見なされ」ません（レビ7：18、ハシャブ）。レビ記7：18は、罪人が義とされ神の御前に立つために、犠牲が罪人の恩恵と「見なされる」ために定められた状況について語っています（レビ17：1～4比較）。神はその罪人を、1人ひとりには実際には不義であるにもかかわらず、義と見なしてくださるのです。

**問6 少しの時間、私たちの過ちにも関わらず、神の御目に義と見なされ、あるいは認めてくださるというすばらしい真理について瞑想してみましょう。その意味をあなたの言葉で書き表してみましょう。**

信仰は、私たちが義という賜物をいただくための手段なのです。これこそが詰まるところ、キリスト教の美しさであり、神秘であり、栄光なのです。キリスト者として信じ、キリストに従う者すべては、この驚くべき思想に重要な根源を見いだすのです。信仰を通して、私たちは神の御目に義と認めていただけるのです。服従、聖化、聖さ、品性の開発、愛などの、この思想に続くものすべては、この重大な真理から生じたものでなければなりません。

キリスト者でありたいと望みながらも、義とされた実感がないという人に、あなたはどのように答えますか。

偉大なカトリック教会の擁護者であるベラルミン枢機卿は、<sup>すう ききょう</sup> 枢機卿は、<sup>てん か</sup> 転嫁される義のみによる義認のメッセージと彼の人生すべてを通じて闘いました。彼の死の床に際して、死の前に平安を与えるために、彼に十字架と聖徒たちの功德が運ばれました。しかし彼は言いました。「そんなものはいらない。私にはキリストの功績を信じるほうが心休まるのだ」

多くの人々は、彼らの人生が終わりに近くなると、人生を振り返って、聖なる神の御前に救いを得るには、彼らの行為と行いがいかに虚しく、いかに無駄で、いかに役に立たないものであったかを見るのです。そうして、彼らがいかにキリストの義を必要としているかを知るので。

しかし今、「私たちは主にある平安を得るために死を待つ必要はない」ということは福音です。契約の全体は今、神の確かな約束、私たちのための約束、私たちの人生をもっと良いものに変えてくれる約束に基づいているからです。

**問7** 下の聖句を読んで、あなたの神との契約を育て、守り、強めるという文脈でそれぞれ質問に答えてください。

(1) 詩編 34 : 8 (口語訳7節)

あなたは神のすばらしさをどのように味わっていますか。

(2) マタイ 11 : 30

私たちのくびきを軽くするためにキリストがしてくださったこととはどんなことですか。

(3) ローマ 5 : 1

和解のために義認は何をしなければなりませんか。

(4) フィリピ 2 : 7、8

あなたはキリストが経験されたことから何を得ましたか。

祈りのうちにあなたの生活を吟味し、あなた自身に尋ねてください。あなたは、神との関係を強めるために、どんなことをしていますか。何がそれを邪魔していますか。あなたは何を变える必要がありますか。

「彼〔罪人〕が救いを手に入れることのできる唯一の方法は、信仰を通してである。信仰によって彼は、神にキリストの功績を差し出すのである。そして主は、そのひとり子の服従を罪人のものとされる。キリストの義が人の過ちの代わりに受け入れられる。そして神は悔い改め、信じる魂を受け入れ、赦し、義とし、彼を、あたかも彼が義であるかのように扱い、主は彼をそのひとり子を愛すように愛すのである」(『セレクトッド・メッセージ』第1巻367ページ、英文)。

「悔い改めと信仰を通して、私たちはキリストを救い主として受け入れるのである。主は私たちの罪を赦し、律法の違反のために定められた罰を免除してくださる。そのとき、罪人は、罪なき者として神の御前に立つのである。彼は天の寵愛ちようあいのうちにに入れられ、聖霊を通して父と御子との交わりに入るのである。

それでもなお、成し遂げられるべきもう一つの御業みわざがある。それは、今も進行している御業である。魂は真理を通して聖化されねばならない。聖化もまた、信仰を通して完成される。そしてただ、キリストの恵みのみによるのである。それを私たちが信仰を通して受け入れるとき、品性がつくり変えられるのである」(『セレクトッド・メッセージ』第3巻191ページ、英文)。

## 話し合いのための質問

- 1 生きた信仰と死んだ信仰の違いは何でしょうか (ヤコ2:17、18)。パウロは生きた信仰をどのように描写していますか (ロマ16:26)。信仰に伴うものを示すのに鍵となる言葉は何ですか。
- 2 もし私たちが、私たちのうちにある義でなく、認められた義によってのみ救われるとすれば、私たちが何をしようと、どのように行動しようと構わないのでは、という(ある種筋の通った)議論にあなたはどうか答えますか。

## まとめ

古い契約と新しい契約の両方で、イエスは律法による負債を支払っていただきました。それによって私たちは神の目に義なるものとして立つことができます。